

未定稿

※第2回委員会までの意見で整理

平成26年度 淀川水系流域委員会【地域委員会】 淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する 報告書に対する主な意見

淀川水系河川整備計画について、危機管理・治水・人と川とのつながり・河川環境・利水・利用・維持管理の各分野において、平成25年度の進捗状況について、点検を行った。主な意見は以下のとおり

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見

◆危機管理分野

.

◆治水

- ・流域の模式図に各ダムの集水面積や諸元その他、今回の台風における雨の情報などを掲載することで、水系全体を俯瞰出来るような工夫をお願いしたい。
- ・例えばダムの統合操作について時間軸を合わせて各ダムの状況をA3版1枚に示すなど、日吉ダム以外のダムについても効果をアピールする等の工夫をしてはどうか。
- ・水防に関する講演・出前講座の回数が平成23年から減っている。講座を受けた方は習熟されると、講座が必要なくなったり、講座を受けた方が自ら講習をされたりといった状況が推定される。こういった場合、今後も減少していくことが想定されるので、指導者の育成の観点を追加する等の工夫をしてはどうか。

◆人と川とのつながり

- ・「住民・住民団体（NPO等）との連携状況」の観点において、「河川愛護活動等の実施内容・回数」の指標は、クリーン作戦や観察会の開催内容と回数が報告されているだけで、何かを開催して参加者が集まったという報告だけではどのように連携したか不明確。各主体がどういう役割分担で何々を実施したという記述に工夫してはどうか。

◆河川環境

- ・堆積土砂の掘削において、観点の趣旨を考慮して、土の処分で有効利用されていれば、その内容を報告書に記述した方が良い。
- ・「河川環境の保全と再生のための人材育成の実施内容・回数について」、観点の趣旨を考慮して、担当者会議や水質事故講習会でどのような内容が実施されたかが記載されて

いると良い。

◆利水

.

◆利用

.

◆維持管理

.

◆全体

- ・「前年度指摘事項の対応方針（資料－２）」の意見は、対象河川に限った内容ではないので、対応方針は対象河川以外の内容も回答する必要がある。

◎事業実施に関する主な意見

◆危機管理分野

- ・カラー量水標の設置は、景観に配慮しつつ設置を増やすことで、住民が自ら見て、自ら判断して、自分の責任で逃げる「自助」につながるため、ぜひ進めてほしい。
- ・量水標は堤外側に設置するものであるが、高い堤防の場合には堤内側にも設置するような工夫で、増水時の水位と堤内地の高さ関係を理解でき、危機管理意識の醸成になると思う。
- ・防災意識を高めるためには、地域の中で防災として活用できる資源を住民が掘り起こし自助だけでなく共助の段階まで提案できるような仕組みについても言及できればと思う。
- ・観点「破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況」に関して、今後は外水氾濫に限らず一連として内水氾濫も踏まえた避難も視野に入れていく必要があると思う。

◆治水

- ・河道掘削工事では、土砂の搬出行程や搬出先の調整に苦労しているようだが、その成果とし水位低下効果が発現したことがよく分かった。他の流域でも治水対策を進めて頂きたい。
- ・洪水調節の効果的な実施に関して、既設ダムを最大限に活用するような操作として「弾力的な運用」と表現されているが、操作や運用として規定のルールがあるため適切ではないと思う。誤解を招くことにならないよう、相応しい表現が望まれる。

◆人と川とのつながり

- ・淀川管内河川レンジャー活動分布図において、治水の活動が少ない。近年は水害が毎年発生していることもあり危機意識は広がっていると思われるので、人と川とのつながりを促進する観点としては治水は有効な分野だと思う。
- ・河川レンジャーの公募に際しては、多様な応募者が集まるような公募方法の工夫が必要であると考えている。
- ・事業説明会、工事説明会、ワークショップ等の開催回数が報告されているが、しっかりと議論できるワークショップは住民と行政の新たな関係を作る場として有効な手法であると考えている。
- ・住民参加推進プログラムの実績に、水害発生時の避難体験として水中歩行があるが、確実に安全につながる取り組みなので是非推進していただきたい。
- ・河川に関する広報活動を実施しても、興味のある人しか見ない（来ない）ものなので、別のイベントに併せて広報すれば効果的だと思う。管内の様々なイベントの度に実施してほしい。また、広報の手法に関しては、例えばパネルの展示より模型やジオラマの方がわかりやすく、子どもも興味を示すと思う。

◆河川環境

- ・堰の撤去や、堰の改良による魚道機能の向上について、鮎の遡上など全体としての効果を期待します。
- ・河道の掘削工事や堰の撤去工事において環境への配慮がなされているが、そこに住んでいた生物たちにどんな影響を与えたのか、モニタリングをしっかりと実施することが重要である。

- ・淀川流域における外来種のブラックリストを作成して、その対策の内容や状況を整理することで対外的に取り組みを説明しやすくなるのではないか。
- ・ヌートリアを駆除しようと思っても、制度上、市民活動で実施することは容易ではない。河川環境への影響との理由で許可がでた事例もあるので、何か工夫できないか。
- ・人材育成として、技術力の保持・伝承・向上を図る取り組みを実施しているとのことであるが、知らないことが多いのが現状であり、それをどう行き渡らせるかということが課題ではないか。
- ・外来種は、増える前に手を打つことが得策。大川でボタンウキクサが増殖したことがあったが、事務所の取り組みにより根絶できたことで今では見られなくなったことは対策の効果である。
- ・堰の簡易改良を住民参加で取り組むような活動は地道に続けてほしい。啓発活動や次世代につながる。
- ・市民にできる活動を市民に近いところで指導して下さる人材の育成をお願いしたい。
- ・魚道の改良を工夫して取り組んでいる姿勢は良い。
- ・アンジュレーションの経過をモニタリングしていくことが重要だと思う。

◆利水

.

◆利用

.

◆維持管理

- ・河道内樹木の伐採後の処分に関して、希望者には伐採した枝や幹を提供しているが、伐採作業についても希望者が行えるようにすれば、河川の維持管理における市民参画や、更なる事業コスト縮減に効果があると思われる。

◆全体

- ・ダムにはいろんな逆風もあるが、効果があったことはしっかりと発信すべき。ホーム

ページでの広報や、記者発表では弱いと思うので工夫が必要。

- ・事業の進捗を進捗するためには、費用を増やすべきか、中身を変えるべきかといった議論も必要ではないか。
- ・河川管理者のみで実施できることには限界があるため、河川レンジャーや地域へ任せる等、担い手の意向を考えるべき。